ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動
～さくらタイムの実践から～

秋田県大館市立桂城小学校

◎　はじめに

本事業の推進に当たり、大館市では、県立大館高等学校、大館市立第一中学校、大館市立上川沿小学校、城南小学校、城西小学校、そして本校が存在する地区が推進地域に指定された。事業委託１年目の今年度は、「豊かな体験」の視点からこれまでの実践を見つめ直し、本事業の趣旨に合致する実践について、各校ごとにその内容を深め、交流していくことにした。

以下に本校で行われた実践について紹介する。

1　活動に関する学校の全体計画

(1)　活動のねらい

「さくらタイム」を「縦割り班」を中心に、より豊かな学校生活や地域生活を創造していく活動」ととらえ、縦割り班という異年齢集団での活動を通して、桂城っ子としての自覚を高めたり、仲間と協力していこうとする態度を養ったりする。

(2)　全体の指導計画

さくらタイムの活動にはいろいろな内容があるが、ここではボランティア体験に関連する内容の計画について記す。

活動の名称	主な活動内容	教育課程上の位置付け		実施学年
親子クリーンアップ	校地のごみ拾い、草取り	学校行事	５月	全学年
ボランティア体験デー	校区のごみ拾い、廃品回収等	総合・生活	１０月	全学年
縦割り班クリーンアップ	校地周辺のごみ拾い	総合・生活	１１月	全学年
仲良しランチ	縦割り班による青空給食等	給食指導	5･10･2月	全学年
縦割り班集会	班目標の設定・ポスター制作	総合・生活	5･10月	全学年

＊　それぞれの活動の具体的な計画立案は、各指導部が担当し、職員会議に提案される。また、各活動のねらいについては、総合的な学習の時間と生活科において、それぞれのねらいを設定し、指導に当たっている。

2　活動の実際　～ボランティア体験デーを例にして～

１０月第２土曜日を「ボランティア体験デー」に設定し、「ととのえるボランティア」「まなぶボランティア」及び「深める学習」の３つの学習活動を展開して、子どもたちのボランティアに対する意識を高めている。今年度は次の表にある一日の流れで、それぞれの活動を行った。

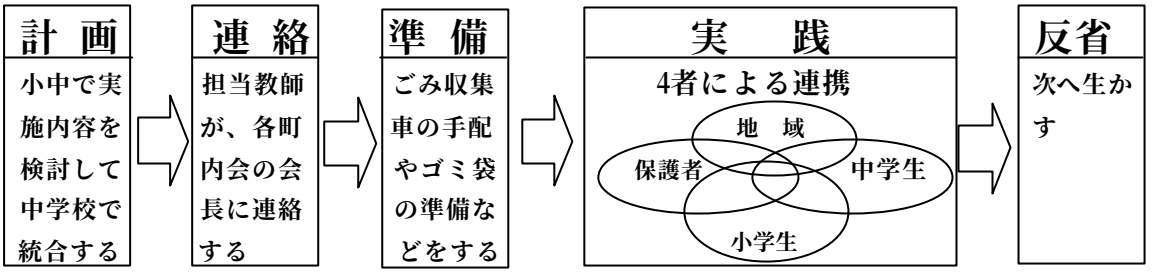
１日の流れ

午　前　の　活　動		給　　食	午後の活動
ととのえるボランティア	まなぶボランティア	なかよしランチ	深める学習
町内ボランティア ・町内ごみ拾い ・廃品回収など	車いすコース アイマスクコース プロテクターコース	縦割り班による 給食 縦割り班遊び	道徳 学級活動

(1)　町内ボランティア体験（ととのえるボランティア）について　２時間

ととのえるボランティアを「地域の環境問題等への関心を高め、環境を大切にする心や、よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度を育てる」体験活動ととらえ、以下のとおり活動を展開した。

【町内ボランティア体験実施に当たっての流れ 】



活　動　一　覧

町　内　名	活動内容	集合場所	準備する物	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ協力員
鉄砲場	河川敷の清掃	児童公園	軍手、ﾃﾞﾚｯｷ 買い物袋	
大下町	神社ごみ拾い	神社前	軍手、ﾃﾞﾚｯｷ 買い物袋	
河原町	ごみ拾い 廃品回収	食糧事務所前	軍手、ﾃﾞﾚｯｷ 一輪車	

活動一覧にあるように、各町内毎に、小学生・中学生・保護者・町内の人々が協力して、クリーンアップや廃品回収などの活動に取り組んだ。活動後実施したアンケートに次のような声が寄せられた。

・ごみ拾いは、はじめはやりたくなかったけれど、やってみたらとてもいい気持ちになりました。町内のためにもなるし、自分のためにもなるからです。
・地域の人たちは自分たちと違って「やる気」があると思った。自分もごみを拾ううちに夢中になった。終わった後はすがすがしい気持ちになった。
・子どもの見本になるように、普段からやらなければいけないと思った。(保護者)

このアンケートから、最初のうちはごみ拾いに消極的だった子どもが、年上の人や大人と一緒に行動しているうちに、心が揺さぶられて最終的には自発的に活動に取り組んだことが分かる。

普段の生活ではなかなかできない、家族を越え世代を越えたふれあいを通して、子どもたちが、地域の環境について進んで働きかけたり、自分を省みたりすることができた活動であった。

(2)　ボランティア学習（まなぶボランティア）　２時間

まなぶボランティアを「福祉やボランティアについての理解を深め、学習や生活への意識を高めるとともに、障害がある人たちと共に生きるための知恵や態度を育てる」体験学習ととらえた。

「車いすコース」「アイマスクコース」「足のプロテクターコース」の３コースを設定し、縦割り班毎にそれぞれ擬似体験に取り組んだ。活動に際しては、子どもたちが介助する側と介助される側、双方を体験できるようにした。２つの立場を体験することにより、互いの思いや願いをより深く感じ取ることができると考えたからである。

①　車いすコース

車いすコースでは、車いすに乗ってまっすぐ進むことや、段差を越える体験に取り組んだ。

②　アイマスクコース

このコースでは、アイマスクをしての階段の上り下りや、廊下の歩行に取り組んだ。何も見えない状態で歩くことに難しさを感じたとともに、介助することの難しさを、このコースの子どもたちは強く感じていた。

③　足のプロテクターコース

このコースでは、プラスチック製の板を取り付けたサポータータイプのプロテクターを付けて、疑似体験をした。

(3)深める学習　１時間

午前中に行われた２つの活動で感じたことを学級活動で振り返ったり、それに関連する資料を扱った「道徳」を展開したりした。

学級活動や道徳では、新鮮な経験を基に、自分の考えを発表し、話し合う姿が見られた。

４年生では、何か自分たちでできることはないか考えた。近くにある病院や、特別養護老人施設に出かけて、病気やけがで入院している人やお年寄りを励ましたい、という意見が出された。

この意見を総合的な学習の時間で取り上げ、後日実現する運びとなった。

今日のボランティア体験は、ごみ拾いとアイマスクコースをやりました。朝のごみ拾いはお母さんと友達とやりました。最初はいやだなと思ってあまり拾えませんでした。お母さんはごみを見つけていっぱい拾っていました。お母さんを見ていたら私もやる気が出てきてがんばりました。

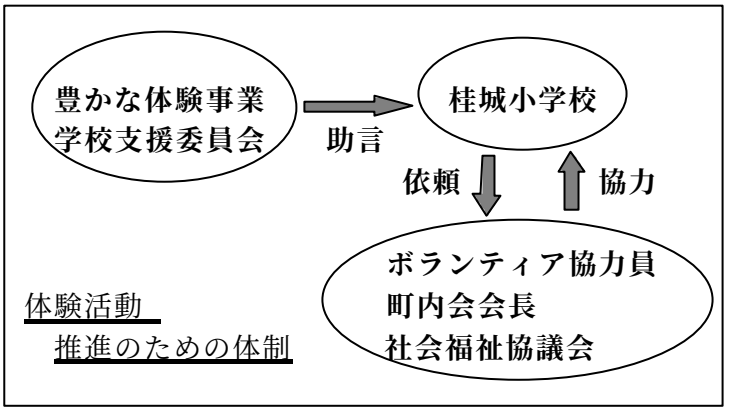
学校に来てからアイマスクをつけて校内を歩いてみました。ちょっと歩いたら階段がありました。介助してくれる人が「階段だよ」と言って手すりをつかませてくれました。私はこわくて介助の人の肩にもしっかりつかまりました。手すりがなく、肩だけにつかまって下りていくのは勇気が必要だと思いました。次に私は介助をやりました。簡単だと思っていたけどとても難しかったです。指示をするのが特に難しかったです。「左に曲がって」「階段を上るよ」など、壁にぶつかったり転んだりしないように、タイミングを合わせるのが大変でした。

今日は２つの体験をしましたが、いろんなところで人の役に立つことが分かりました。私のおじいちゃんは腰が痛くて困っているので、家に帰ったらおじいちゃんの手伝いをがんばろうと思いました。

3　学校支援委員会について

ボランティア体験を行う前に支援委員会を開き、委員からこの活動についての意見をいただいた。

「心のバリアフリー」、「コミュニケーションの重要性」など、貴重な助言をいただくことができた。



◎　おわりに

成果

これまで個々に実践されてきた活動を「ボランティア」という視点で見直すことで、それらを有機的に関連付けることができた。また、この活動で体験したことが、その後の教科や総合的な学習の時間での学習に生きてきた。

課題

２年目となる来年度は、同一地域に生活している、幅広い層の子どもたちが、同一のボランティアに取り組むことができるように、各種機関との連携を図るなどして体制を整えていきたい。そして、小・中・高、各校の連携をさらに深め、共に活動を展開していきたいと考えている。